



約3km地図を見ながら、各ポイントでクイズに答えてお菓子ゲット!



合言葉は? 「トリック・オア・トリート!」



仮装もパッチリ決めて「ハイ!チーズ!」



ゴール後は豚汁でお腹もいっぱい!

表彰写真

今こそ求められる交流行事 しょうじょう 富山市立上条公民館

上条地区は富山市の北東、水橋地域の中心を流れる白岩川右岸に位置する静かな田園地帯で雄大な立山連峰が一望できる地域です。子供の減少から、水橋地域の小中学校全体が学校統合の予定で、当地区の小中学校は先んじて閉校となり、隣接地区と統合となりました。

コロナ禍により、多くの行事が縮小・中止を余儀なくされ、交流の機会の減少による孤独が社会問題化する中、子供を中心とした世代間交流によりコロナ前の活気を取り戻そうと「ハロウィンウォークラリー」を企画したところ、申し込みが相次ぎ、青天のもと様々な仮装をした94名が参加し大盛況。「上条にこんなに子供がいたのか!」と驚くくらいでした。まだ制約のある状況ではありますが、地域に喜ばれる行事を企画して参りたいと思います。

〈本号の主な内容〉

- 2面 ● 第57回東海北陸公民館富山大会
- 3面 ● 東海北陸公民館富山大会
文科省施策説明・記念講演
- 4面 ● 東海北陸公民館富山大会
第1～第3分科会発表
- 5面 ● 東海北陸公民館富山大会
第4～第5分科会発表
第50回富山県社会教育大会
- 6面 ● わが町の公民館活動
・滑川市滑川西地区公民館
・砺波市立鷹栖公民館
- 7面 ● わが町の公民館活動
・入善町飯野公民館
・氷見市窪公民館
- 8面 ● 表彰館紹介
・砺波市立雄神公民館

第44回全国公民館研究集会・第57回東海北陸公民館大会富山大会

9月8日(木)・9日(金)、標記富山大会は、富山県民会館、パレブラン高志会館、サンシップとやま、北日本新聞ホールで開催された。新型コロナウイルス感染予防対策のため Zoom によるライブ配信も利用できるようにした。8日全体会参加者数は、対面参加者が1,052名、Zoom参加者が149名、合計1,201名であった。

アトラクションは、南砺平高等学校郷土芸能部が、8月に日本一に輝いた「越中五箇山民謡」を披露した。



アトラクション

開会にあたり中西会長から、コロナ禍での公民館活動に関することとして、「全国各地の公民館は苦勞を強いられました、その中から様々な創意工夫が産み出されました。この成果は、ウイズコロナ、ポストコロナにおいても、大きな力になるものと確信しています。そうした意味においても、本大会が『新時代の公民館研究集会』の先駆けとなるよう、決意を新たにするとともに、参加いただいた皆様が、ここで学んだ成果を活かして、公民館が地域の人びとの絆を結び、人びとのかけがえのない拠り所となることを願っています。」との挨拶があった。



挨拶する中西会長

全国及び東海北陸公民館連合会、県公民館連合会の表彰式に続いて、来賓の新田八朗県知事から「公民館には、日常の様々な課題の解決や防災への取組みを進めていくなど、地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進する中核的な役割が期待されています。」

富山県では、本年2月に、新しい富山の未来を描く「成長戦略」を策定し、その柱に、経済的な豊かさに加え、身体的・精神的・社会的にも満たされた状態である、真の幸せ「ウェルビーイング」の向上を掲げています。

一人ひとりが、様々な人や社会との「つながり」のなかで、「自分らしく」生きていることに満足でき、心豊かに幸せを実感できる「ウェルビーイング先進地域、富山」を目指しています。その上で公民館活動が果たされる役割は大きいと考えています。地域コミュニティの希薄化が言われる中で、この大会を契機に、一段高いステージの公民館活動を実現され、ウェルビーイングに満ちた地域づくりに一層のご尽力を賜りますよう心からご期待申し上げます。」との祝辞があった。



講演する新田知事

また、来賓の藤井裕久富山市長から「近年の様々な課題の解決には、心の豊かさや潤いが実感できる魅力ある地域づくりが大変重要であり、生涯学習や情報・文化の拠点として、また、地域住民の皆様とのふれあいと交流を広げるコミュニティ活動の拠点として、公民館の果たす役割はより一層大きくなっています。」

今後も市民の皆様の主体的・自主的な活動を支援する公民館へのニーズは、ますます高まるものと考えていますが、この度、公民館の運営・活動等に携わっておられる皆様方がここに一堂に会され、研究討議されますことは、誠に意義深いことであり、その成果に大きな期待を寄せています。どうか皆様方には、これまで以上に人と人との絆を深め、支え合う豊かな地域づくりを目指して、公民館が子供から高齢者まで、幅広い世代の方々に親しんでいただける場となるよう、一層のご尽力を賜りますよう心からお願い申し上げます。」との歓迎のことばがあった。



講演する藤井市長

最後に、公民館の歌を心の中で斉唱して開会行事を終えた。

表彰に輝いた方々

【全国公民館連合会】

・優良職員表彰

永田 晋治

・永年勤続表彰

笹岡伊希子	山本みゆき	桶谷 弘美	建部 真吾	高田 里美	十文字一郎	高井 清高
高木由紀子	谷保 修二	定田 真弓	島田 真弓			

【東海北陸公民館連合会】

・優良職員表彰

馬場 均 曾根 直子

【富山県公民館連合会】

・優良自治公民館

高岡市五福町縄手自治公民館 高岡市横越上自治公民館

・永年勤続表彰(20年以上)

平岡 春美 谷井 千秋 池田 澄子

・永年勤続表彰(10年以上)

酒井 和恵	松井さゆり	廣瀬 淳子	林 晴美	河原 誠一	中山 光恵	矢田 陽子
橋本 孝雄	小橋 秀次	片岸 秋雄	木下 眞	石田 百代	本田 恵子	花木 勲
小林 昌樹	田口 稔	吉江 香織	谷口 政芳	柳田 紀子	岩田 伸弘	荒川美佐子
中田まり子	有馬 信幸	中川 聖子	泉 裕子	笹原 健一		

文部科学省 施策説明 (要旨)

社会教育の推進と施策の動向について

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課
課長 黄地 吉隆 氏

1. 社会教育の在り方について

- (1) 新しい資本主義に向けた重点投資分野
 - ・ 人への投資が一番の柱
 - 公助 + 自助 + 共助の視点が重要
- (2) 生涯学習・社会教育が果たしうる役割
 - ・ ウェルビーイングの実現



講演する黄地課長

2. 公民館等社会教育施設について

- (1) デジタル化
 - ・ 地域の取組にリアルな交流とデジタルの相乗効果が生まれる。
 - 〈具体的な事例〉
 - ・ 「デジタル・デバイド解消」に向けた取組 (千葉県船橋市)
 - ・ 寿都町デジタル寺子屋「公民館 ICT 活用」 (北海道寿都町総合文化センター)
 - ・ 公民館 Wi-Fi 導入・公民館 Wi-Fi 活用講座 (福岡県福岡市公民館)
 - ・ ICT 活用による多様な参加・交流の創出 (福井県高浜町立和田公民館)
 - ・ 公共施設のスマート化 (広島県福山市)
 - ・ アクセス解析ツールを活用した新たな利用層の開拓 (長崎県長崎市北公民館)
- (2) PPP/PFI (コンセッション等) の促進
 - ・ 公共の施設とサービスに民間の知恵と資金を最大限活用
 - ・ 住民にとってメリットがあるかどうか大切ポイント
- (3) 長寿命化計画の策定
 - ・ 老朽化が進む施設毎の長寿命化計画を各自治体で令和4年度末までに作る。

3. 社会教育士について

- ・ 令和2年度から社会教育の主事講習修了者が社会教育士と称することができる。
- ・ 学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりの中核的な役割を果たす。
- ・ 社会教育主事講習をオンラインでも受けられるような仕組みも考えていく。

4. 地域と学校の連携・協働の推進について

- ・ コミュニティ・スクールは、地域と学校の連携・協働による学校運営のための仕組み
- ・ 地域住民等が「当事者」として学校運営に参画できる仕組み
- ・ 学校と地域をとりまく課題解決のための仕組み
- ・ 学校と地域の協働活動の中に、是非公民館の皆さんにも入っていただきたい。

記念講演 (要旨)

とやまの自然と文学

～近現代文学 (散文) を中心として～

射水市大島絵本館
館長 立野 幸雄 氏

1. 富山の文学の土壌

文学作品 ← 人々の生活 生活 ← その地の環境 (自然・文化) の影響 多彩な自然と文化は多彩な文学作品を生み出す。

- (1) 豊かな自然
 - ・ 立山から富山湾の高低差4,000m
 - ・ 富山湾 → 最深部1,200m 以上 対馬暖流・リマン寒流・深層水 魚種500種 (日本海800種) 天然のいけす
 - ・ 農作物 → 林檎の南限、日本梨の北限
- (2) 多彩な文化 → 日本の東西文化の共存圏
 - ・ ソバ文化圏とウドン文化圏
 - 正月雑煮の切餅と丸餅

2. 近・現代以前の主な文学作品

【上代】

- ・ 『万葉集』と大伴家持 越中時代5年間の歌数223首
- ・ 立山地獄谷信仰 『本朝法華験記』 『今昔物語』

【中古】

- ・ 和歌 『新葉集和歌集』 『李花集』
- ・ 謡曲 『善知鳥』 『藤』

3. 近・現代の主な文学作品

(DVD「越中文学散歩 ふるさとの作家が綴るとやま」視聴)

- (1) 自然と文学
- (2) 生活と風習
- (3) 幻想と推理
- (4) 社会と歴史・騒動

4. 富山にゆかりの芥川賞・直木賞作家

【芥川龍之介賞】

- ・ 堀田善衛 (高岡市伏木出身) 『広場の孤独』
- ・ 柏原兵三 『長い道』 (藤子不二雄 A 「少年時代」の原作)
- ・ 宮本輝 『螢川』 (富山市が舞台)
- ・ 木崎さと子 『青銅』 (砺波の農村地帯のこを中心に書いた小説)
- ・ 高山羽根子 (富山市出身) 『首里の馬』

【直木三十五賞】

- ・ 源氏鶏太 (富山市出身) 『英語屋さん』
- ・ 野村尚吾 (富山市出身) 芥川賞候補3回、直木賞候補2回 『旅情の華』 『戦雲の座』
- ・ 恩田陸 (小学2年から5年まで富山市五番町小) 『蜜蜂と遠雷』



講演する立野館長

※富山県公民館連合会のホームページで、文部科学省施策説明と記念講演の動画を配信していますのでご覧ください。

第1分科会 発表(要旨)

児童クラブと協力した事業運営

小矢部市公民館連絡協議会
副会長 藤田 一彦 氏

1. 取組に至る経緯

高齢化率が高まり、公民館の利用者が少ない状況が続く中、子供や親の若い世代を公民館に呼び込み、地域の活性化につなげられるよう、公民館と児童クラブが協力した事業を展開した。



発表する藤田副会長と福江館長

2. 事業内容

- (1) 児童クラブで行っていたサマーキャンプを公民館と協力した活動として行うことにした。児童クラブが活動計画案を提示し、公民館と意見交換をしながら内容を決めている。ほとんどの親子が参加する一大イベントとなっている。
- (2) 地区社会福祉協議会が基本案を作成し、児童クラブと他協力団体の意見を参考にした「三世交代交流会」を開催した。子供からお年寄りまでがふれあい、思いやりをもって活動する良い機会となっている。

3. 今後の課題

若者やお世話をする方の減少は続いており、活動内容・方法を見直していく必要がある。負担軽減を図り、SNSの活用等で参加者の関心を高め、新たな人材の発掘・育成につなげていきたい。

第2分科会 発表2(要旨)

持続可能な公民館活動の在り方

氷見市阿尾公民館
館長 濱本 純雄 氏

1. 取組に至る経緯

地域住民のニーズを探り、魅力ある事業を企画するために、予算確保・関係機関の協力や参加者の募集、事業終了後の反省考察を行う。



発表する濱本館長

2. 事業内容

同じ目的をもつことで、協力関係・仲間意識が醸成され、郷土愛も深まり、新たな人材発掘につながった。

主な事業内容は下記の通り。

- (1) 公民館講座(10講座)：生け花・かな書道・学童茶道・手芸・フラダンス・新舞踊等
- (2) 公民館行事(主催3件・共催4件)：公民館祭・親子リング狩り・歩こう会・料理教室等
- (3) よくばりウォーキング：市健康課との連携
上記事業等を通して、公民館は諸団体や講座等の架け橋となっている。

3. 今後の課題

活動内容がマンネリ化してきており、郷土愛を育むための新たな活動の工夫が必要だ。今後も新たな指導者の発掘と、参加者が固定化しないように地域住民のニーズの把握と新しい人間関係を構築していきたい。

第2分科会 発表1(要旨)

様々な垣根をこえた対話の創造

—地域課題の解決に向けて—

射水市金山コミュニティセンター
生涯学習推進委員 松原 美砂 氏

1. 取組に至る経緯

幅広い年代が地域の魅力を再発見し、課題を共有し解決に主体的に参加するきっかけを、ワークショップを通じて創造していく。



発表する松原委員

2. 事業内容

- オンライン上の掲示板 Padlet を活用し、情報交換と意見交換・広報活動を行った。
- ワークショップは下記の内容で3回行った。
- Part 1 未来を描く：金山の良さや理想像を追求
- Part 2 未来を創る：目指すキャッチコピーを創り、個人の取組を決定
- Part 3 その後どうなった？さらにどうしよう？：個人の取組を紹介、周囲を巻き込むアイデア、応援する仕組みについて意見交換

3. 今後の課題

目指す金山づくりに向けてスタートを切れたが、参加者は限定的であった。住民同士、団体間のつながりをさらに広げ深め、地域の歴史や文化を重んじつつ、住民が願う未来実現のために対話を継続しながら、できることから行動していきたい。

第3分科会 発表(要旨)

家庭・学校・地域を結ぶ活動を目指して

黒部市立村椿公民館
館長 岡島 茂 氏

1. 取組に至る経緯

コロナ禍の影響で公民館行事の中止が続いたが、学校と地域が連携して行える事業を企画し、みそづくりと七夕飾りづくりを開催した。



発表する岡島館長

2. 事業内容

- (1) あいの風とやま鉄道 生地駅に七夕を飾る
村椿小学校全児童と教職員の皆さんに、短冊に願い事を書いてもらい、七夕飾りを生地駅に展示した。駅利用者も願い事を書けるコーナーを設けることで、子供たちの願いや思いを共有し、人と人のつながりを感じることができた。
- (2) みその作り方や手順を地域の方から習う
村椿地区で収穫された米と大豆を使用して、4年生の児童が地産地消で自前みそを作った。栽培からみそづくりまで、学校と地域の農家の方と連携することで内容の充実を図ることができた。

3. 今後の課題

参加しやすい工夫や地域活性化に発展させるための改善が必要だ。みそづくりもいかに事業の充実を図っていくかが問題である。

※富山県公民館連合会のホームページで、発表の動画を配信していますのでご覧ください。

第4分科会 発表(要旨)

ウィズコロナからポストコロナに向けての新しい公民館活動

富山市山室校下自治振興会
事務職員 布施 智課 氏

1. 取組に至る経緯

コロナ禍でも、学びとつながりを守りたいという想いで「チームやまむろ」をつくり、安心安全に活動してもらえるように努めた。



発表する布施事務職員

2. 事業内容

- (1) ウィズコロナ1年目：コロナ禍であっても学びの場を守りたい
 - ① 安心安全な活動：やまむろちいさんぽ・会議プラス講座・自治公民館で出前講座・お外で寄せ植え・「広報誌ふれあい」の配布
 - ② 心に優しい活動：おそろいのプレスレット作成・コケリウムの作成
 - ③ 同じ目標をもって活動：エールプロジェクト・ラベンダープロジェクト
- (2) ウィズコロナ2年目：地域の宝(人・想い・モノ)を集結した活動
 - ① 手作りキャンドル：2,000個のキャンドルを並べて展示
 - ② ゲータッチ写真：約300枚の写真を掲載
- (3) ポストコロナを見据えながらの3年目
 - ① コロナ前の事業をポストコロナ仕様へと見直し：簡単プロジェクトのすすめ・市立公民館から自治公民館へ
 - ② 新たな学習の模索：より身近な防災学習・チームやまむろでSDGs

3. 今後の課題

あらためて人と人とのつながりの大切さを実感した。そのつながり、ふれあいを支える居場所の一つが公民館。「心をつなげていけることから始めよう」を合言葉に、楽しく明るい地域を目指す。

第5分科会 発表(要旨)

地域防災における公民館の役割

富山市立豊田公民館
館長 舛谷 友義 氏

1. 取組に至る経緯

豊田校区は、想定浸水範囲が広く、真下を活断層が走っており、災害による住民の命と暮らしが憂慮される。豊田地区自主防災会を結成し、避難所運営マニュアルを盛り込んだ防災計画書を策定。各町内会も自主防災会を結成した。



発表する舛谷館長

2. 事業内容

- (1) 令和元年：10月に防災計画書に基づき住民の避難、安否確認、応急手当等の総合訓練を豊田小学校で実施。462名が参加。
- (2) 令和2年：感染拡大の影響で事業実施できず。
- (3) 令和3年：6月に大雨による「警報レベル3」発令を想定した初動連絡・活動机上訓練・炊き出し訓練を公民館で実施。8月には、介護支援専門員と東日本大震災の際にボランティアとして現地で活動した理学療法士を招き、避難所での災害弱者への対応の仕方と介護者の心構えについて講座を開いた。10月は、防災資機材(段ボールベッド、非常用発電機、簡易トイレ、ワンタッチテント、段ボール間仕切り等)を公民館で展示。防災士による取扱い訓練も実施。
- (4) 令和4年：6月に「四季防災館」にて、自主防災組織の隊長や役員を対象に防災講座と防災体験を実施。10月には、富山市消防局と自主防災会との合同訓練を実施。

3. 今後の課題

富山県は幸いにも災害が少ないと感じ、災害を他人事と思っている人がいまだに多い。しかし、決して富山県が安全な地域ということはない。いかに住民の危機意識を高めていくかが課題である。

**「人と人との絆が深まり、豊かに生きる地域社会をめざして」
第50回富山県社会教育大会開催**

第50回富山県社会教育大会は、7月9日(土)県社会教育振興協議会に加盟する11団体から約260名が参加して、婦中ふれあい館で開催された。公民館連合会からは47名の参加があった。

開会にあたり、中西会長が挨拶し、横田副知事、瘡師県議会副議長から祝辞があった。

表彰式では、各社会教育団体の活動に長年にわたり貢献されてきた方々に、横田副知事から感謝状が贈られた。本会からは、高井清高副会長が表彰を受けた。

講演では、秋水美術館館長の浅地豊氏が「重要文化財佐竹本三十六歌仙絵『源重之』」と題して講演した。

実践発表では、富山県高等



講演する浅地氏

学校PTA連合会から県立魚津高校PTA会長の松倉良知氏が「進路指導とPTA～進路指導に関する取り組み～」と題して、日本ボーイスカウト富山県連盟から遠渡祐輝氏と野島康平氏が「日本のボーイスカウト100周年」と題してそれぞれ実践発表を行った。



実践発表をする松倉氏

最後に、ガールスカウト富山県連盟連盟長の中井奈津子氏が大会宣言を提案し採択された。



実践発表をする遠渡氏・野島氏

西地区公民館まつり

滑川市滑川西地区公民館

滑川西地区は、海に面した滑川市の北西部に位置し、約1,180世帯が住んでいます。当館は、道路を挟んで向かい側に、木造の旧校舎が映画「おおかみこどもの雨と雪」で舞台モデルとなった田中小学校があります。

当館では毎年、地域交流を目的とした「西地区公民館まつり」を開催し、地区内の飲食店の名物の販売、地域に関係した歴史や文化を題材にしたブースを作っています。

今年度は、地域の子供達に楽しい時間を過ごし



公民館まつり（射的）

てもらえるよう、田中小学校育友会（PTA）の協力を得て、「射的」を復活させました。また、県内で活動される「劇団ひまわり一座」の公演では、お年寄りの皆さんにも喜んでいただきました。

歴史と文化のブースでは、地区ゆかりの人物や場所などを題材としたクイズを出題しました。景品として地区の名物グルメ（ハンバーガーやお餅）がゲットでき、視覚だけでなく、味覚や臭覚でも地域の歴史や文化を体感してもらいました。

まつりの締めは、恒例の「大抽選会」です。大抽選会のコンセプトは、ズバリ「自分では買わないが、もらうと嬉しいもの」です。豪華？景品を目指して、約150名が自分の抽選番号が呼ばれないかと、一喜一憂され、笑顔の絶えない、楽しい公民館まつりとなりました。

コロナ禍のため、以前のようにできない環境ではありますが、地域の皆さんには、これまでに行事への参加や、運営のお手伝いをしていただいております。その感謝の思いを込めて、今後もますます地域が繋がる公民館行事を行えるよう、努めて行きたいと思っております。

わが町の公民館活動

砺波市立鷹栖公民館

いきいき体操クラブ

「たかのっす」

鷹栖地区は、砺波市西部に位置し小矢部市と南砺市に隣接する米作地域であり、17の区と2町からなる、940世帯、人口2,800人余りの地区です。また鷹栖は、かつての旧制礪波中学の所在地であり、砺波地区一円から若者たちが集い学び合う地であったため、志学・向学心を尊重する風土が培われたとも言えましょう。

鷹栖公民館では、「集う、学ぶ、結ぶ」をモットーに、地区民が交流を深める場づくりと活動の推進を目指しています。公民館主催行事には、走ろう&歩こう会、郷土めぐり、文化祭、しめ縄作り、二十歳の集いなどがあり、自治振興会や各種団体と連携協力するものでは、敬老会や地区民体育祭、各種スポーツ行事、クリスマスケーキ作り、男性料理教室等の行事があります。

これらの行事も、コロナ禍の影響で中止や縮小を余儀なくされる現状ですが、代替の企画を考えるなど様々に工夫しながら、各事業の趣旨、長所を継承していきたいと努めています。

今年度の特色として、コロナ禍でも皆が集まって軽い運動ができないかという地区民の声に応

え、公民館健康講座、いきいき百歳体操クラブ「たかのっす」が、5月からスタートしました。公民館の呼び掛けでメンバーを募り結成したもので、砺波市地域包括支援センターの応援のもと、毎週木曜日の午後8時から体操をしています。9月には体操と併せて、「一閑張り」講習会を実施し、工芸品作りにも挑戦しました。

今後、公民館講座として「鷹栖の歴史講座」も企画しており、活動の幅を広げていきたいと考えています。



重りを付けて筋力トレーニング

コロナ禍の中だからこそ

飯野地区は、北アルプスの鷲羽岳付近を源とする黒部川の右岸、黒部川扇状地の扇端部分に広がっています。世帯数は約1,600戸、人口約4,500人の地区です。

当館は飯野小学校の南側に位置し、平成27年に竣工しました。当館の前身である農村環境改善センターに平成14年度に保護者の寄付により設けられた学童保育室の伝統を継ぎ、町でただ一つ学童保育室を併設した公民館として、数多くの小学生の放課後保育を担ってきました。当館は、「自分



園芸ボランティア等研修会

入善町飯野公民館

たちの力でやり遂げる」という、パワフルで協力的な地区住民の拠り所となっています。

さて、当館でも他の公民館と同様、コロナウイルスの流行とともに室内での活動を伴う多くの行事が中止となりました。三世代交流会や親子そば打ち会、飯野小学校との協業事業の講演会等、公民館活動の三つの要素である「結ぶ」「学ぶ」「集う」を達成することが、困難な時期がありました。

そこで、公民館祭りでは飲食や演芸発表を取り止め、サークル活動や家庭での自粛生活の中で作り上げた作品の展示だけに集中しました。飲食等を伴わない公民館まつりでは集客力に欠けるため、来館者全員にスピードくじを引いていただくなどして、新たな楽しみを付加して「集う」「結ぶ」機能の回復に努めました。

また、野外研修にもこれまで以上に積極的に取り組み、「自然に親しむ会」「ボランティア研修会」等を企画し、全地区住民に回覧板でお知らせし「学ぶ」「集う」場の設定に努めてきました。「暦年に同じ」ではなく、何ができるかを考えながら公民館活動を見直していくことが大切だと感じています。

わが町の公民館活動

氷見市窪公民館

さらに魅力ある窪公民館へ

窪公民館は氷見市南東部に位置し、窪小学校校区(窪・柳田・園)3地区3,327世帯、8,667人のご支援とご協力の下、活動を行っています。

窪公民館の教養講座として、ヨガ・太極拳・箏曲・ペン習字・書道・茶道裏千家・茶道藪内流・パンフラワー・俳句・楽楽体操講座、放課後子ども書道教室、そば友の会を開設しています。その他、公民館活動として、5月の花壇づくりからスタートし、周辺環境美化に努めています。年2回の資源回収は、朝早くから各自治会長が中心となり精力的に回収作業をしていただきました。これは公民館の様々な活動をする上での大きな収入源になっています。

また、「日の出ウオーキング」、「教養講座の集い」、「公民館まつり」、「ミニ門松作り」、「干支切り絵作り」など毎年恒例の活動も行っています。その中でも公民館まつりはコロナ禍で飲食を伴うことができないため、作品展示だけでしたが、教養講座(俳句・パンフラワー・書道等)の他に地域の方々から何点もの一般作品の出品がありました。来館者は、体験や鑑賞で芸術の秋を堪能しました。

また、健康増進と交流を目的に初めて行った

「カローリング・コーンホール教室」には、老若男女が集い、大盛況でした。参加者は新しい競技に興味津々で、声を掛け合いチームプレーに興じました。コーンホールは、その後も3地区の長寿会等で楽しんでもらっています。さらに、外部からの依頼で、「フレイル予防実践講座」の講義と実習を5、9月に行いました。2月には地元の方に講演をしていただく「いきいき講演会」を予定しています。

公民館活動をさらに魅力あるものにし、子供からお年寄りまで幅広い世代の方がより多く集い、交流できる場を企画・運営していきたいと考えています。



カローリング・コーンホール教室

表彰館紹介

砺波市立雄神公民館

令和3年度優良公民館表彰 (文部科学大臣表彰) 受賞

「ふるさとの魅力を次の世代に伝えよう！」

砺波市雄神地区は庄川地域の東部山間地域に位置し、庄川河川沿いの巾約2km、長さ約5kmと細長い集落で、人口は252世帯742人と砺波市では3番目に少なく、高齢化率は43%と高い地区です。

高齢化、少子化の波が押し寄せる中で、地域の元気が失われることを防ぐためにはどうしたらよいか。地区住民が現状を率直に受け止め、その中で公民館が中心となって自分達ができる活動を進めています。

当地区の特徴的な活動事例を紹介します。

【公民館まつりの前夜祭の実施】

平成29年より、公民館まつり前夜祭を実施しています。飲食や歓談のスペースを設け、老若男女の交流やにぎわい創出の場をつくることで、まつり当日に向けての気分を高める有意義な時間となっています。

【公民館まつりでふるさと学習】

令和2年はコロナ禍により、例年のステージ発表等の催し物を中止し、「未来につなげよう！ふるさとの歴史と文化」をテーマに掲げ、当地区の西暦80年鎮座と伝わる雄神神社が所蔵する大正・昭和・平成の弁財天社33年式年御開扉大祭の様子が記録された合計5巻85mの絵巻物を展示しました。また、同年3月に発行された雄神誌に掲載された史跡・名所の写真展も行い、地区住民がふるさとの歴史や文化に触れる機会となりました。

【ふるさと探訪歩こう会】

7年目となるこの活動には、「自分たちの地区の魅力を再認識してほしい」という思いを込めています。日頃見過ごしている自然や史跡をじっくり巡ることで、地域への愛着が深まります。地域の魅力を次の世代へ伝えるには地域を知ることが必要であり、その基盤となる活動となっています。

子どもたちは、公民館の行事に参加した体験やその楽しい雰囲気は簡単には忘れません。子どもたちに「楽しい」とたくさん思ってもらい、地域のよさや人の温かさを伝えていきたい。少子高齢化を止めることは難しいが、うまく付き合っていくことは可能だと思います。人が集まりやすい環境を整え、楽しむことでつながりを深め、世代を超えて地域の輪を育んでいきたいと思っています。



公民館まつり前夜祭



大祭絵巻展



雄神誌写真展



ふるさと探訪歩こう会

おめでとうございます！ 各種受賞者・公民館を紹介します

- ◇令和4年度「社会教育功労者表彰」(文部科学大臣表彰) ・高井清高氏(富山県公民館連合会副会長)
- ◇令和4年度「富山県教育功労者等表彰」 ・優良社会教育機関：高岡市立福岡公民館
- ・社会教育功労者：馬場 均氏(前富山県公民館連合会副会長)